

酒々井町 郷土研究会々報

第63号

平成4年1月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

謹んで新年の

お祝詞を申し上げます

平成四年元旦

新年のご挨拶

平成四年の新春をことほぎ、
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は会員各位の積極的な
ご活動、ご協力によりまして行
事を無事に進行することが出来
ました。厚く御礼申し上げます。
最近では国内外の情勢が目まぐ
るしく変化し、時間は加速度的
に速く経つていく感じがいたし
ます。昔から一年の計は元旦に



郷土研究会会長

会 田 秀 雄

ありと申しますが、年の始めに
たてた計画がこれからの成果に
関係してまいります。

昨年は春の七草粥に始まって
都内及び県内の見学会を数回、
又、信州方面一泊見学会等特に
十一月の酒々井町生涯学習フェ
スティバル参加の拓本文化展
は、皆さんに大変お骨折り頂き
無事に終える事が出来ました。
今年も新しい抱負と希望をもち

一年の計画をたて、皆さんと
共に和を広げ一層魅力ある会に
致したいと念願しております。
最後に会員の方々の益々のご
繁栄をお祈り申し上げますと共に
本年もよろしくお願いいたしま
す。

年頭にあたり

田村直子

新年おめでとunggざいます。
お正月を迎えすぎゆく一年の
過ぎを感じます。今年も平和な
よい年でありませう祈ります。
世界の状況の目まぐるしい変化
には驚くばかりです。一方、酒
々井町郷土研究会は数々の行事
が行われ、有意義に平成三年度
をすごして来ました。十一月の
生涯学習フェスティバル参加
の文化展の展示品は、酒々井町
の絵画をはじめ拓本の数々が、
昔を今に繋ぎとさせ、その工拓
本作りの手ほどき実習が、でき得
がたい経験でした。皆様のご協
力のもと役員が実を結ん
だものと感動しております。

今年も各役員、熱心な企画調
査を重ねて、意義深い行事を沢
山考えております。郷土研究会
も発展して十六年です。人口二
方に足りないこの酒々井町の中
で三百人をこえる会に成長して
おります。皆様のもつともつと
知りたいた郷土のあれこれを考え
努力してまいりますので、今年
も沢山の方のご参加を頂き、会
の発展のため依り一層のお力添
えいただきますようお願い申し
上げます。
年頭にあたり皆様の健康と
幸多き年でありませう祈念申
し上げます。



「本佐倉」は佐倉の中心地

酒々井歴史余話(二)

高橋 健一

下総佐倉藩稲葉氏の家臣磯部昌言は、『総業概録』(正徳五年)の中で「旧佐倉」について、「今の府城に對して旧佐倉といふ」と述べています。今の府城とは、時に稲葉氏が城主であった佐倉城、旧佐倉とは本佐倉をいふたもの事です。これは何を典拠としたのか不明ですが、これ以後に成立した筆者未詳の『成田の道の記』(寛政十年)にみえる「元佐倉」、中路定俊の『成田名所図会』(安政五年)にみえる「元佐倉町」の表記にして

もしかりです。そして、本佐倉については、従来から、江戸時代初期に、土井利勝が鹿島山に佐倉城を築いて以後、城下町としての「佐倉新町」が整備されると、佐倉の中心地が西に移動して、ここに「元の佐倉」の意味で本佐倉と呼称されるようになったといわれています。何が旧佐倉・元佐倉を意識させるのでしょうか。

やはり佐倉城の存在が大きいのでしよう。しかし、事實はこれに反し、今から四〇一年前の天正十八年には、すでに本佐倉の地名はありました。

本佐倉城下の浜宿(佐倉市大佐倉)に、本佐倉城主千葉勝胤が開基したと伝えられる。勝胤寺(曹洞宗)があります。そして一通の古文書が伝来します。本佐倉地名解明のまがかりは、実はこの古文書の中にみられるのです。

天正十八年に相模小田原の後北条氏と豊臣秀吉は、一大合戦を繰り広げますが、豊臣氏の軍勢は千葉邦胤亡き後、後北条氏の領国と

なっていた両総地域にまで進攻しました。そして在り地からの要請にもとづいて、寺社を中心とした各地に、軍勢が乱妨狼藉や放火、また地下人百姓らの非分の儀に申し懸ることを禁止して、これに違反すれば藤科に死す旨の「禁制」を發します。殊胤寺には「禁制」の添

状が残されています。これが前述した一通の古文書です。五月二日付のこの添状には、豊臣氏の家臣である河野長吉と木村一が名を連ねて署判しており、「当所江御衆印取次候」とあるので、かつては御衆印取次候もあつたことが判明します。そしてここに宛所として、

下総国 印東庄本楼十貳(寺)

之内七ヶ寺 本楼即本佐倉が、天正十八年には、地名として確実に存在していたことを物語るものです。伝承ではなく正本の文書によってこれが確認されることは貴重といえるでしょう。本楼即本佐倉は「本佐倉」であつて、「元佐倉」ではなかつたのです。

さて、それではこの「本」には、どのような意味が秘められているのでしょうか。これは「佐倉の中心地」という意味で理解したいと考えます。なお、中世の文書に多出する「作倉」は、いうまでもなく「佐倉」の表記の一種ですが、これはむしろ佐倉に先行する表記とみられます。そしてサクラ(作倉・佐倉・楼)とは、サク

(谷間)十ラ(接尾語)と考えられ、現在も大佐倉に残る「大楼」という小字から位置関係が深ると、それは大佐倉駅周辺の谷間地形をい

つたものと考えられます。ここは、いふならば、佐倉地名の発祥地といえるでしょう。おそろしくは地名発祥当初の佐倉は、ごく狭い範囲の呼称であつたと思われれます。それが戦国時代に、千葉氏によって本佐倉城が取り立てられて以後、佐倉地名は城を含めた周辺一帯にまで広がり、そして天正十三年に千葉邦胤が家臣に殺害されるといふ事件の後、千葉氏の旧領国は、家督を子の氏直に譲つて「御隠居様」と呼ばれていた北条氏政の「佐倉領」として編成されますが、その過程の中の、佐倉地名の広がりが見定まれます。ここに「佐倉の中心地」としての本佐倉が意味を持つものといえます。

このように考えると、語源の解釈はともかくとして、少なくとも従来から無批判に受け入れられてきた、本佐倉は「元の佐倉」「旧の佐倉」といった安易な見解は、今後訂正していく必要があるのではないでしようか。



郷土研行事業内

平成4年1月~3月

	1月	2月	3月
史談会	休	8日(土) 公民館 会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分	14日(土) 公民館 会議室 「酒々井町の年中行事」を読む会 午後1時30分
名勝探訪 野草の会	16日(木) 京成酒々井駅 8:26出発 名勝探訪 東京都庁 酒々井 ← 日暮里 ← 原宿 → 明治神宮 → 原宿散策(昼食) → 新宿 → 都庁 → 新宿 → 上野 → 酒々井 申込受付 1月10日(金) 午前9時 申込人数 45名 (雨天実施) 各自申し込み下さい。	25日(火) 野草の会 七草粥を食べる会 会費 500円 公民館講堂 申込受付 1月25日 11:30 集合 受付時間 12時30分 場所 公民館1階 定員 80名/期 (申込日は總會の日です)	17日(水) 京成酒々井駅 8:26出発 名勝探訪 国会議事堂 酒々井 ← 町屋 → 国会議事堂前 → 国会議事堂見学(昼食) → 憲政記念館 → 国会議事堂前 → 山王神社 → 上野 → 酒々井 (雨天実施) 定員 50名 (本人直接申込のこと) 申込受付 1月25日 總會の日(12:30)
平成4年度 総会	<p>1月25日(土)</p> <p>午後12時30分受付 午後1時30分開会</p> <p>中央公民館講堂</p> <p>平成4年度会費受付 年会費(1月~12月) 1,000円</p> <p>当日会費受付と同時に「七草粥を食べる会」の 会費及び国会議事堂見学申込の受付をします。</p> <p>議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成3年度事業報告及び決算報告 ・平成3年度会計監査報告 ・平成3年度事業及び決算の承認について ・平成4年度事業計画案及び予算案について ・其の他について <p>◎ 多忙の折恐縮に存じますが、多数の ご出席をお願い致します。</p>		

名勝探訪 1/16 至 3/11 (水)

◎ 東京都庁見学 1/16 (木)

明けましてお目出とうござい
す。平成四年最初の名勝探訪、先
ずはまだお正月気分が漂う明治神
宮へ。遅ればせの初詣ですが、新
しい年の平安と郷土研のますます
の発展を祈念しましょう。お昼は
若者の街原宿で思い切り若返って
みます。オールドボイス・ガー
ルズの来襲で原宿中の時計が逆回
転するかも。

午後からは皆様のご要望に答え
るべく悪戦苦闘をして、ようやく
見学予約が採れた東京都庁の見学
です。色いろの話題を集めた新し
い都庁舎内をあなたの目で突見し
て下さい。(参加申し込み要 雨天決行)

◎ 国会議事堂見学 3/11 (水)

日本の国の政治の中心で、国民
にとつて何処よりも身近かである
はずなのに、見る機会がなかなか
無い、今回はそんな国会議事堂を
隅から隅まで見学します。議員食
堂でいただく昼食は国会議員の味
がするとか、大いに楽しみます。

議事堂庭園西側の憲政記念館は国
会開設八十周年を記念して設立さ

れ、館内の尾崎メモリアルホールは
憲政の擁護と発展に尽力した尾崎行
雄を顕彰記念しています。
十分ほど歩くと山王日枝神社。江
戸城鎮守として徳川家よりの厚い被
護を受け、「山王祭り」は江戸最大
のお祭りでした。(参加申し込み要、雨天決行)

お願い致します

名勝探訪の申し込みについて

お忙しい折、誠に申し訳ございませ
んが、本人直接の申し込みのみ受け
付けますので、ご理解の程、よろしく
お願いいたします

あとがき

明けましておめでとうございませ
す。昨年は生涯学習フェスティバル文化
展に初参加して、相沢晴次さんの永
年のご努力の賜の拓本の数々を拝見
出来て大変嬉しうございました。見
学会も毎回多数の方の参加により盛
会に終り何よりでした。唯、私達の
指導者の一人青木喜作氏を失った事が
非常に残念で心よりご冥福をお祈り
いたします。

今年も又、色いろ計画しますより、ご
皆様よろしくお願いいたします。

